

13. ハウス栽培

この項をハウス栽培としたが、今回の事例ではハウスの各種作物による事故というより、ハウスのビニール張りにかかわる事故が3例とまとまって報告された。

特に、大型のハウスではビニールの張り替えなど、高所からの転落という特有の事故がある。この高所転落は2例報告されているが、1例は脚立を使った事故であるので、脚立の項にも分類されるものであるが、今回は「ビニールの張り替えを作業」時の事故として分類した。

①ビニールハウスの張り替え作業中フレームから墜落、コンクリートに頭をぶつけ、頭部陥没骨折 (平成19年 9月 8時頃、ビニールハウス、男性・72歳)

ハウスのビニール張り替え時、息子さんがハウスの上を歩いて掛け終わったビニール(0.15mm)をゴムバンドで固定しようとして、脚立を使わず、ハウスの後ろ正面でビニール越しに骨格に手足をかけて登った。これまでも同じ経験があり転落したことはなかったが、事故時は従前のビニール(0.075mm)よりも厚いものを張っており、手足が十分にハウスの骨格に載せることができず、高さ約2.5mから転落し、ハウス傍のコンクリート製U字溝の上端に後頭部左側を強打した。ヘルメットは被っていないかった。

当人は「せっかちな性格」(息子談)で、事故当時も、ハウス横で仮留めをしていた息子さんが「ビニールの固定は自分がするから、登らなくていい」と言ったにも関わらず、以前にも同じやり方で登ったことがあるからと、登っていった。さらに、以前は大工の棟上を手伝ったことがあり、高いところに登ることに自信を持っていたようである。

ハウスの横で作業していた息子さんがすぐ気づき、駆けつけた。大量の血が出ており、すぐに息子さんが携帯電話で救急車を呼んだ。近くの総合病院に運ばれた。左後頭部頭蓋骨陥没骨折、脳挫傷、頸椎損傷、左半身は今も麻痺したままである。

* 事故原因

豊富な経験をもっていた専業農家。24棟のハウスを所有。現在は息子さんが継いでいる。事故当時は、脚立を使用せず、ビニールが従前のものより厚くなっていることも考慮せず、息子さんの忠告も聞かずに、把持するところも十分でない状況で高所に上った行為が直接の原因と云わざるを得ない。しかし、経験豊富な高齢者は、得てして若者、特に息子などの忠告を聞かないものなので、事前に脚立を用意する、ビニールが従前のものより厚くなっていることの危険性を、具体的に説明することができればよかったかもしれない。

このような事故の対策として、

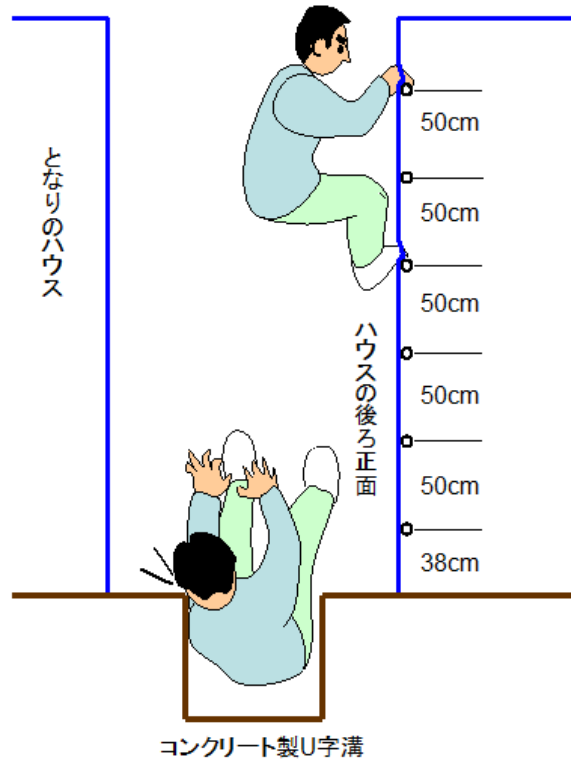
- ・ハウスに登るときは、ヘルメットを被る。命綱を付けることを原則とすべき。
- ・資材販売会社が農家にビニールを販売するときに、張替え手順書の中に「ヘルメットと命綱を着用のこと」と明記させる。
- ・組合などの集会を通じて、危険作業であることと、具体的な安全手順の周知を図る。

しかし、そもそも、トビ職などの専門性のない人が、3mを超えるハウスに上がり、60kg(0.15mm厚さのもの)もあるビニールを取り扱うこと自体が問題である。

→ 実際、価格は高くなるが、資材販売会社に張替えまで委託する高齢者もいるとのことなので、「張替えを専門の業者に委託すること」が最善と考える。その他では、ハウスに上がらなくてもよい張り方を考案すべきと考える。



転落事故のあったハウスの後ろ正面



②いちごハウスにビニールを張っていて脚立から転落し、右膝部を骨折

(平成24年10月 午後5時頃、ビニールハウス、男性・68歳)

天気もよく、風もなく、午前6時よりいちごハウスのビニール張りを始める。家族3名(本人、奥さん、息子)と応援者を含めて当初10名で、長さ60m、高さ4.5m、幅7mのハウス3棟(いずれも単棟)と長さ39m、高さ2.5m、幅6mのハウス1棟、長さ28m、高さ2.5m、幅6mのハウス1棟と長さ41m、高さ4m、幅7mのハウス1棟の合計6棟のハウスのビニール張りを実施する。

順次6棟分、ビニールをかぶせて、かぶせたビニールを抑えるために杭ごとにマイカー線を締め、さらにハウスの前後のところをパッカーで止めていく作業であった。午前10時過ぎ頃からは、本人と息子と手伝いの方の3人で、さらに嚴重にスプリングでハウスの

前後のところのビニールを止める作業を高いところは脚立を使ってやっていた。最初に始めた3棟のハウスは足場はあまりよくはなく、それなりに注意しながら実施していたとのこと。残り3棟のハウスは足場は比較的しっかりしていたので、それほど気を使っては作業をしていなかったような気がする」と本人は述べている。

夕方に6棟目の最後のハウスに取りかかり、自分としては息子に任せていいかなとは思いつつ、つついとおせっかいで脚立の一番上に乗ってビニール止め用のスプリングを使ってビニール止めを手伝っていた。手を伸ばしていてバランスを崩して脚立の上から転落したが、その時に脚立の踏み板(何段目かは記憶していないが)に足を挟み込み転倒していたとのことであった。

受傷直後はそれほど症状ではなかったが夜間に痛みがひどくなり、翌日の朝に奥さんに整形外科病院まで車で送ってもらった。その病院からさらに別の病院を紹介され受診して、即入院となった。1か月間入院後、約2週間、リハビリに通院。その後は全く後遺症もなく、いちごハウス内での収穫作業や収穫後の選別調製作業をやっている。

時刻が午後5時頃でこれが終わると一杯飲む(本人は焼酎が大好き)ことができるといったことが少し頭の中でよぎったような気もしたと述べている。

いちごハウス 602 坪(ハウスで6棟分)、水田 80 a、畑約2畝の農業を家族4人(本人、妻、息子、祖母)で実施。畑は家のすぐそばにあり、主に祖母がやっている。本人は電力関係の会社を定年退職してから農業をするようになった。



* 事故原因

いちごハウスでの作業は、足場がしっかりしているからと、少し油断があったかもしれないと本人は述べているが、息子に全部まかせておけばよかったと後悔している。また、脚立を使用する際、以前は足場を安定させるために蒲鉾板を敷いて安定度を高めていたが、最近は全くそのようなことをしなくなったとも述べられ、「昔からやってきていたこともないがしろにできないなあ」などとも言っていた。

③ビニール張り替え作業中、古いビニールを勢いよく引っ張ったところ、留めていたホチキスの針が外れ右眼に刺さる

(平成22年10月 午後2時頃、イチゴハウス、男性・47歳)

イチゴのハウスを覆っているビニール(厚さ 0.1mm)を張り替えるため、古いビニールを引きは

がす作業を行っていた。ホチキスで留められていたビニールを畝間に入って中腰の姿勢で勢いよく引っ張ったところ、ホチキスの針が被害者の右眼に飛び込み刺さった。

一緒に作業していた妻に目の様子を見てもらったところ、ホチキスの針が角膜に刺さっているようだといわれ、救急車を呼んで病院に搬送してもらった。レントゲン撮影を経て、摘出施術を行った。右眼角膜損傷、入院5日、通院1週間。元々乱視であり、この傷が原因であるかは定かではないが、事故を境に酷くなったため、眼鏡をかけるようになった。



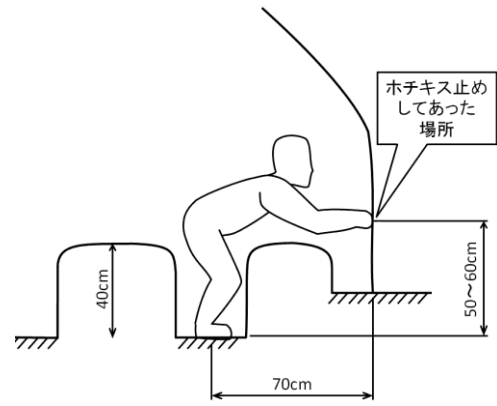
ハウス群とハウス内のイチゴ

* 事故原因

ビニールを一気に引きはがしたため、ホチキスの針が勢いよく飛んできた。これまでも針が顔に当たったことはあったが、目に入ることはなく、今回のようなことは予測できなかった。

同時期に行っていた稲刈り作業の進捗が遅れていたため、作業スケジュールがかち合い、焦りながら作業を行っていた。

現在では、眼鏡の上からかけられる防護ゴーグルを着用して作業するようになった。コンバインでの稲刈り作業でも、埃や夾雑物が飛んでくることがあるため、防護ゴーグルを着用している。



古いビニールを止めていたホチキスを外していて、針が目に飛び込み刺さる